

株式会社オプトラン

個人投資家向け説明会（2022年9月12日開催）QA サマリー

Q1：競合はどのような会社か？強みはどのようなところか？

A1：主に日本・中国・欧州の企業。PVD 装置に関しては、ローエンドは中国、ハイエンドは欧州のメーカーが競合。また、新技術である ALD は、フィンランド発の企業である。

強みは設立当初から顧客企業の近くに開発・生産拠点を設けることで、綿密なコミュニケーションにより顧客ニーズを早期に把握し、開発に繋げ、新たな市場を持続的に創造している。当社装置は、グローバルな研究開発活動に基づいた高難易度の技術を反映し、重要な部品（キーコンポーネント）は自社開発している。客先に装置設置後もフル稼働に至るまでのトータルソリューション提供にも重点を置き、顧客の信頼を得てきた。

Q2：マーケットシェアはどのくらいか？

A2：市場シェアは3～4割程度と見込んでいる。

Q3：為替の影響は？

A3：当社売上の約半分は米ドル建、半分弱は円建、残りは人民元建となっている。米ドル高円安の場合、売上の増加要因となる。当社コストの多くは人民元建と円建のため為替影響を受ける。人民元高円安の場合、コストの増加要因となる。利益レベルで見た場合、米ドル影響が人民元影響を上回るため利益の増加要因となる。

Q4：株主還元強化は？

A4：当社は研究開発を中心に行い、企業の成長、企業価値の向上で株主の皆様に還元することを最優先としている。配当性向については連結当期純利益の30%程度とすることを基本方針としている。

Q5：米中貿易摩擦の影響は？

A5：当社は中国・米国の顧客と取引があるため、地政学リスクにさらされている。リスク最小化のため China+1、中国に加え、日本、東南アジア等他の地域での生産を視野に検討を進めている。

Q6：半導体光学融合とは？

A6：半導体光学融合とは半導体製造の後工程で半導体デバイス上に光学成膜を一体で行うこと。

従来、成膜の主な用途はカメラレンズやディスプレイ等光学分野が中心であったが、近年 IoT 分野であるセンサーのニーズ広がっている。センサーに使用する半導体製造の後工程のパッケージで光学目的の成膜が必要となる。

Q7：新たな生産インフラ拡充に向けた具体的な計画はあるか？

A7：研究開発機能拡充のために新たな土地・建物を埼玉県鶴ヶ島市に取得。今後、成長を見込んでいる ALD 事業発展のために昨年光馳半導体技術（上海）有限公司を上海に設立。現在、上海近郊で土地使用权を取得し工場を建設。2023 年本格稼働に向け設備投資を行っている。

Q8：海外拠点の稼働状況及び新型コロナウイルス感染症の影響は？

A8：2022 年 4 月に上海市がロックダウンになり、当社主力工場光馳科技（上海）有限公司は生産できない状況となった。6 月のロックダウン解除後は 4 月に生産できなかった分を取り返すため、6～8 月はフル稼働に近い状況で生産を行った

Q9：物価高の影響は？

A9：2021 年以降新型コロナウイルス感染症の影響やウクライナ情勢の影響でサプライチェーンが非常に厳しい状況になっている。当社も物価高の影響を受けているが部材購入先業者見直しや部材の先行手配を行い、物価高影響を最小限に抑える努力している。

Q10：製造期間はどの程度か？

A10：装置にもよるが、受注から売上を計上するまでの期間は 6 ヶ月程度。6 ヶ月のうち製造から出荷にかかる期間は 2～3 ヶ月。出荷から客先での検収完了までにかかる期間は 3～4 ヶ月。2022 年はサプライチェーンの混乱等の影響を受け、通常よりも長くなっている状況だが、部材の先行手配等を行うことで製造期間の影響を最小限に抑える努力を行っている。

Q11：ALD 装置のマーケットシェアは？他の装置と比べた場合の利益率は？

A11：ALD 技術はもともと半導体装置の技術である。当社は光学的な応用を他社に先駆けたため先行利益がある。今後もトップシェアを維持していく。当社は他社に先駆けて新しい技術を開発することを通じて顧客に高い付加価値の装置を提供することで高い利益率を確保している。